



墳墓の上に置かれた鎮石

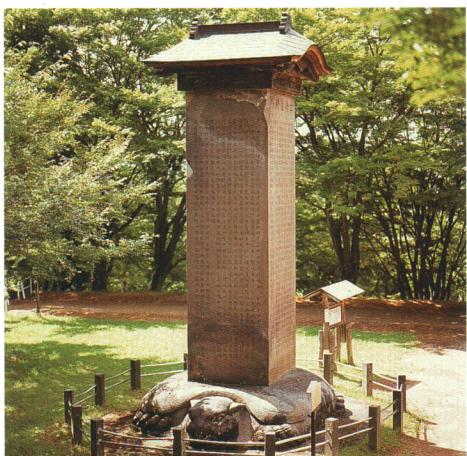
はにつれいしんのひ
48 土津靈神之碑 (見祢山)

保科正之の履歴を刻んだ石碑で、碑文は山崎闇斎が撰文し、筆者は当時第一等の能筆家土佐左兵衛高庸である。高さ7.3mと墓碑としては日本最大のものであり、竿石は延宝元年(1673)中に荒取りをして、七月に引出し、翌年の二月十二日までかかって運びこんだ。それより碑石の細工にかかり、四月二十四日に作り上げた。次に四方に足場を組み、碑文を彫り始め、約五ヶ月後の九月二十二日に墨入れを終え、完成了。碑文の文字数は1943字、文字の大きさは三寸(9cm)四方である。

(町指定重要文化財)

たなかまさはる はか
49 田中正玄の墓 (御廟)

会津藩の家老を三十四年間、城代を五年間務め、藩の基礎を固めた人である。正之公が自分の埋葬の地を見立たれるために見祢山に来られた際、正玄の墓に来られ、「正玄ここにいたか、自分も間もなくまいるぞよ」と言われ、ハラハラ涙を流されたのを見て、お供の家臣一同も涙を流し、正之公を仰ぎ見る者もいなかったという。



まめひこれいしゃ
50 忠彦靈社 (磐根・土田)

会津藩家老友松勘十郎氏興は正之の遺命を奉じて墳墓を築き、土津神社を造営したが、その神社経営の資として土田堰を作り、土田新田村を開拓した。村人はその恩義に報いるため忠彦靈社として氏興を祀った。



はっとりあんきゅう はか
51 服部安休の墓 (神道山)

正之に仕え、その命を受けて神道の研究を専らにし、土津神社初代の神官となった。因みに安休は森蘭丸の孫である。

